

## II-5. 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業において大阪大学の運営、企画によって実施した参画大学連携による教育研究活動に関する成果報告

大阪大学は、「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業の主幹校として、参画大学連携によって実施する教育研究プログラムの企画とその実施責任者としての運営を行ってきた。本事業では、参画大学は、高度先導的薬剤師の養成に向けて、それぞれの物的・人的リソースを活用して、「高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム」を主軸に、「国際医療薬学教育研究推進プログラム」、「グローバル健康環境教育研究推進プログラム」、「地域医療教育研究推進プログラム」に係る取組や教育研究プログラムを実施し、また各地区の薬学教育研究の拠点として地域医療の充実・発展への貢献を図る「地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム」を推進する。主幹校が企画・実施すべき参画大学連携教育研究プログラムとしては、これらのアドバンスト教育研究プログラムの成果を公開し、その普及・定着化を図るための定期的なシンポジウム等の開催、これらプログラムを補完し、その人材育成の目標の達成を図る合同研修会・キャリア形成支援ワークショップや国内外で実施する学生自主研修プログラム等がある。

ここでは、

1. 主幹校企画シンポジウム
2. 合同研修会・キャリア形成支援ワークショップ
3. 学生自主研修プログラム

について、その内容と成果について以下の通り報告する。

### 1. 主幹校企画シンポジウム

毎年3月末に開催される日本薬学会年会及び関連学会において、本事業に関するシンポジウムを企画・開催した。本シンポジウムは、本事業の成果を定期的に報告すると同時に、参画大学、さらには私立大学におけるその普及と定着化を図るものである。本事業に係るシンポジウムと学生のためのキャリア形成支援ワークショップを同時に入れ込んだシンポジウムやワークショップについては、この項と合同研修会・キャリア形成支援ワークショップの項の両方に記載した。

他に本事業に係る参画大学単独あるいは複数大学連携によるシンポジウムも企画・実施されているが、この報告には含めていない。

なお、2019年度は日本薬学教育学会において本事業に係るシンポジウムを実施し、日本薬学会年会における一般シンポジウム（新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催中止）については企画しなかった。

## 【2016年（平成28年）度】

### ○ 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」キックオフシンポジウム

#### 【開催日】

・2017年1月28日

#### 【場 所】

・大阪大学コンベンションセンター

#### 【テーマ】

「国公立大学が目指す6年制薬学教育」

#### 【オーガナイザー】

・平田収正（大阪大学）・村岡 未彩（大阪大学）

#### 【趣 旨】

2016年（平成28年）度に文部科学省概算要求（機能強化経費）で採択された「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」のキックオフシンポジウムとして開催した。

#### 【概 要】

参画大学から参加した学部生、大学院生、若手教員による小グループ討論を行い、プロダクトの作成と、その発表と全体討論を行った。テーマは「国公立大学が目指す6年制薬学教育」であり、国公立大学における薬学教育の在り方、3ポリシーの在り方について議論し、理想とする3ポリシーを作成した。さらにこれに基づいた時間割について議論し、モデルを作成した。

#### 【プログラム】

10:00-10:10 開会式 趣旨説明・挨拶

10:10-10:25 事業説明

10:25-11:25 アイスブレイキング

11:25-13:50 第1部「国公立大学が目指す6年制薬学教育」3つのポリシーの作成

- ・作業説明
- ・グループ討論（昼食を含む）
- ・発表

14:05-16:25 第2部「国公立大学が目指す6年制薬学教育」6年間の時間割作成

- ・作業説明
- ・グループ討論（昼食を含む）
- ・発表

16:25-16:40 総合討論

16:40-17:00 閉会式 挨拶 表彰式 アンケート

\*各大学のプログラム運営委員は、12:30よりプログラム運営委員会へ出席。

○ 薬学会137年会一般シンポジウム (S10) 《本事業に関連するシンポジウム》

[開催日]

・2017年3月25日

[場 所]

・宮城県仙台国際センター等

[テーマ]

「課題解決型高度医療人材養成プログラムー地域チーム医療を担う薬剤師の養成ー」

[オーガナイザー]

・西野 隆雄（大阪大学）・平田 收正（大阪大学）

[シンポジウム要旨]

平成 27 年度入学生から将来のあるべき薬剤師教育を見据えた改訂モデル・コアカリキュラムに基づいた教育が実施され、平成31年度からは本モデル・コアカリキュラムに対応した実務実習が開始される。平成26年度から始まった文部科学省助成事業「課題解決型高度医療人材養成プログラム」は、我が国が抱える医療現場の諸課題に的確に対応することによって健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人の養成を目的とするものである。大阪大学大学院薬学研究科では、本プログラムとして、大学と地域の連携による実践的地域医療教育プログラムの開発と普及を目的に、「地域チーム医療を担う薬剤師養成プログラム」を実施し、改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習における様々なモデル教育プログラムの開発を大阪府下の他大学と、地域の医療施設等の協力のもと、行っている。これらは、大学・病院・薬局の密な連携のもとに地域医療で活躍できる薬剤師の養成を図る新規性の高い実践教育プログラムであり、優れた臨床能力を有し、地域包括ケアなどの今後の地域医療を主導できる高度な薬剤師の輩出が期待できる。今回、本シンポジウムにおいて、プログラムの事業内容の概要、その現状と課題について紹介し、今後、全国におけるモデル・コアカリキュラムに対応した実務実習整備の参考にしていただくことを願っている。

[プログラム]

S10-1 大学・病院・薬局の連携による改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム対応実務実習における地域医療教育モデルプログラムの開発

平田 收正・西野 隆雄・村岡 未彩（阪大院薬）

S10-2 地域チーム医療を担う薬剤師養成 八尾市の取り組みの現状と課題（八尾モデル）

小枝 伸行・小川 充恵・山崎 肇（八尾市立病院）、西野 隆雄・

平田 收正（阪大院薬）

S10-3 地域薬剤師会（豊中市）の地域チーム医療を担う薬剤師養成の取り組みの現状と課題ー開局における薬学実習生の可能性についてー

多田 耕三・芦田 康宏（豊中市薬剤師会）

S10-4 吸入指導の学生実務実習への導入ー吹田モデルー

辻 文生（市立吹田市民病院呼吸器アレルギー内科）

S10-5 薬学生・大学教員からみた改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム対応実務実習に向けた地域連携トライアル実習（1）

中 雄一郎・野村 加奈子・西野 隆雄・村岡 未彩・平田 收正  
(阪大院薬)

S10-6 薬学生・大学教員からみた改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム対応実務実習に 向  
けた地域連携トライアル実習 (2)

西野 隆雄・中 雄一郎・野村 加奈子・村岡 未彩・平田 收正  
(阪大院薬)

[要 旨]  
(省略)

○ 薬学会137年会一般シンポジウム (S51) 《本事業に関連するシンポジウム》

[開催日]

・2017年3月27日

[場 所]

・宮城県仙台国際センター等

[テーマ]

「薬学教育第三者評価による薬学6年制教育の検証と質保証に向けた今後の在り方」

[オーガナイザー]

・平田收正 (大阪大学)

[シンポジウム要旨]

平成16年に出された中央教育審議会による6年制薬学教育に対する提言では、「第三者評価体制の整備」が最重要事項の一つとして取り上げられた。この第三者評価の意義は、大学の薬学教育プログラムが、薬学教育評価機構が定める基準に“適合”することを“認定”することで、6年制薬学教育が“社会が求める薬剤師養成教育の質”を満たしていることを“客観的に保証する”ことにある。薬学教育評価機構は、こういった社会的意義を反映した第三者評価の目的を以下のように示している。1) 「薬学教育評価 評価基準」への適合認定により薬学教育プログラムの質を保証すること 2) 評価結果を大学にフィードバックすることにより薬学教育プログラムの改善を促進すること 3) 評価結果を基に薬学教育プログラムの質を社会に示し、広く国民の理解と支持が得られるよう支援すること

本シンポジウムでは、平成28年度末に約半数の大学の評価が終了するにあたって、大学における分野別評価の意義と必要性、これまでの評価結果の概要、今後大学が取り組むべき内部質保証の在り方、さらには2巡目の評価に向けた評価基準の改定に関する講演を行うことにより、当該第三者評価に関する情報の共有化と薬学教育研究の質の向上に向けた議論の場を提供する。

[プログラム]

S51-1 大学教育の質保証に果たす評価の役割

山田 勉 (立命館大)

S51-2 4年目の薬学教育第三者評価を終えて

平田 收正 (阪大院薬)

S51-3 2巡目の薬学教育第三者評価に向けた評価基準の改定とその意義

長谷川 洋一（名城大薬）

多田 耕三・芦田 康宏（豊中市薬剤師会）

[要 旨]

（省略）

**【2017年（平成29年）度】**

○ 薬学会138年会一般シンポジウム（S34）

[開催日]

・2018年3月27日

[場 所]

・石川県金沢市石川県立音楽堂等

[テーマ]

「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」

[オーガナイザー]

・山下 富義（京都大学）・平田 收正（大阪大学）

[シンポジウム要旨]

薬学部・大学院薬学研究科を有する17国公立大学は、平成28年度から特別経費による「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」を実施している。本シンポジウムでは、本取組の5つのプログラムの内容と成果の紹介、教育研究プログラム開発の基軸となる医療人としてのプロフェッショナリズム養成に関する医学教育の立場からの話題提供、さらに取組の一環として実施しているグローバルな活躍を推進するための地域医療教育プログラム及びグローバル研修プログラムの紹介を行うことにより、本取組に関する情報の共有化とプログラムの普及を図りたい。

[プログラム]

S34-1 高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発

平田 收正（阪大院薬）

S34-2 医学教育におけるプロフェッショナリズム

伊野 美幸・望月 篤・信岡 祐彦（聖マリアンナ医大）

S34-3 薬学・薬剤師が先導する在宅がん医療・緩和ケアの大学間合同 IPE

中嶋 幹郎（長崎大医歯薬）

S34-4 アドバンス教育における海外研修プログラムへの期待と課題

内田 信也（静岡県大薬）

[要 旨]

（省略）

## 【2018年（平成30年）度】

### ○ 薬学会139年会一般シンポジウム（S60）

#### [開催日]

・2019年3月23日

#### [場 所]

・千葉県幕張メッセ国際会議場等

#### [テーマ]

「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」

#### [オーガナイザー]

・鈴木 匡（名古屋市立大学）・平田收正（大阪大学）

#### [シンポジウム要旨]

国公立大学薬学部の使命は、医薬品適正使用から、高度医療の推進、感染症や食品・環境汚染による健康被害の防止に至るまで、広範な職域において指導的立場で活躍できる先導的な薬剤師の輩出にある。薬学部・大学院薬学研究科を有する国公立17大学は、こういった使命を果たすために、平成28年度から特別経費による「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」を実施している。改訂コア・カリキュラムに準拠した実務実習の開始を目前にした本シンポジウムでは、事業の紹介、病院実習についての取り組み、高度先導的薬剤師のグローバルな活躍を推進するための教育プログラム開発の紹介を行い、さらに参加者を交えた討論を行うことにより、本事業に関する情報の共有化と国公立大学がリーダーシップを取る中期的な企画の提言を図るものである。

#### [プログラム]

S60-1 改訂コア・カリキュラムに準拠した実務実習を目前にした千葉大学の病院実習－試  
行と反省と提案－

石井 伊都子（千葉大病院）

S60-2 大学・施設が地域で連携して進める東海地区薬剤師臨床教育の実践報告－薬学教育  
を<地域>で推進する意義と課題－

鈴木 匡（名市大院薬）

S60-3 薬学教育が進むべき道はGlobalizationかHarmonizationか－国公立大学がGlocalか  
ら世界を変える－

小澤 光一郎（広島大院医歯薬保）

S60-4 6年制薬剤師養成教育の評価と課題－英国University college London での留学経験  
から－

武田 香陽子（北海道科学大薬）

#### [要 旨]

（省略）

## 【2019年（平成31年／令和元年）度】

### ○ 薬学教育学会一般シンポジウム

[開催日]

・2019年8月24日

[場 所]

・大阪大学豊中キャンパス

[テーマ]

「世界の薬学教育は今、そして日本の薬学教育を考えるー高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムー」

[オーガナイザー]

・村岡 未彩（大阪大学）・平田收正（大阪大学）

[シンポジウム要旨]

薬学部の使命は、近年の医療技術の高度化や医薬分業の進展などに伴う医薬品の安全使用や薬害の防止といった、社会的な要請に応えることができる高い資質を備えた薬学人材を養成することにある。全国の薬系大学では、このような使命を果たすために、医療薬学を中心とした専門教育や病院や薬局での実務実習の充実を図るとともに、これらを有機的に組み合わせた教育課程の編成を行ってきた。しかし、最先端医療を支える次世代の創薬が待望され、また新興・再興感染症の流行、有害物質による食品や環境の汚染を原因とする健康被害の脅威が増大し、さらには社会の超少子高齢化とグローバル化が大きく進む中で、薬学人材に求められる役割はさらに多様化・高度化している。こういった役割を果たすためには、世界の薬学研究者・薬剤師が共創し、協奏することによって、ヒトの健康の維持・増進に指導的な立場で貢献し、多様かつ高度な医療を推進することが求められる。今後我が国において、こういった共創と協奏を担う優れた薬学人材を養成するためには、まず現在の海外における薬学教育の現状について学び、これを共有化して我が国の教育に生かすことが重要である。

国公立大学は、高度医療を実践する医学部、附属病院との連携体制や、広範領域の充実した学術研究基盤が整っている。薬学部・大学院薬学研究科を有する国公立大学は、広域な職域において指導的立場で活躍できる先導的な薬剤師を輩出するという使命を果たすために、平成28年度から特別経費による「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」を実施している。

本シンポジウムは、本事業の一環として実施するものであり、海外の薬学教育について体験を交えてご紹介いただき、今後の共創と協奏を担う薬学人材養成の在り方について議論する機会としたい。

[プログラム]

#### 1 Global training for the pharmacist of the future

Michael D. Katz (College of Pharmacy, University of Arizona USA)

#### 2 Indonesian pharmacy higher education

Elin Julianti, Daryono (School of Pharmacy, Bandung Institute of Technology, Indonesia)

- 3 オランダにおける薬剤師教育－日本の薬学教育の未来を見据えて－  
山崎 由貴 (千葉大学大学院薬学研究科)
- 4 世界の薬剤師教育制度からみる日本の薬剤師教育の課題－日本の薬剤師教育の質をどのように保証していくのか？－  
武田 香陽子 (北海道科学大学薬学部)
- 5 薬学教育に適した道は Globalizationか Harmonizationか－Glocalな視点から考える－  
小澤 光一郎 (広島大学大学院医系科学研究科)

[要 旨]

(省略)

○ 薬学会140年会一般シンポジウム

- ・企画なし (学会の開催は新型コロナ感染拡大の影響で中止)。

**【2020年 (令和2年) 度】**

○ 薬学会141年会一般シンポジウム (S27)

[開催日]

- ・2021年3月28日

[場 所]

- ・オンライン (広島大学)

[テーマ]

「20年後に求められる薬学人材養成に向けた薬学教育モデル・コアカリキュラム」

[オーガナイザー]

- ・鈴木 匡 (名古屋市立大学) ・平田 收正 (大阪大学)

[シンポジウム要旨]

国公立18大学では、2016年度から文部科学省の支援を受けて「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業を推進している。本シンポジウムでは、本事業の一環として、国公立大学薬学部長 (科長・学長) 会議のもとに設置された国公立大学薬学6年制教育研究検討委員会において検討を行っている課題の中から薬学教育モデル・コアカリキュラム (コアカリ) の在り方を取り上げる。具体的には、20年後の社会において求められる多様化・高度化する医療に対する的確に対応できる薬学人材の養成に向けて再改訂が進められているコアカリについて、1) 高等教育としての薬学教育におけるカリキュラムの在り方、2) 20年後に求められる薬学人材の育成に向けた基本的な資質・能力と学修領域の提示、3) コアカリにおける薬学実践としての卒業研究と実務実習の位置づけ、4) 質保証の視点から見たコアカリ準拠の薬学教育の在り方といった視点から今後のコアカリに基づいた薬学教育について議論し、情報の共有化を図る。



[プログラム]

S27-1 高等教育としての薬学教育におけるカリキュラムの在り方ー概念理解型カリキュラムのすすめー

山田 勉 (名市大高等教育院)

S27-2 20年後に求められる人材育成を見据えた薬学教育モデル・コアカリキュラムそして基本的な資質の方向性を考える

鈴木 匡 (名市大院薬)

S27-3 薬学実践としての卒業研究と実務実習の在り方

国嶋 崇隆 (金沢大院医薬保)

S27-4 質保証の視点から見た薬学教育のあり方ー第1期薬学教育第三者評価を終えてー

平田 収正 (阪大院薬)

[要 旨]

(省略)

○ 薬学会142年会一般シンポジウム (S46)

[開催日]

・2022年3月28日

[場 所]

・オンライン (名城大学)

[テーマ]

「社会が求める薬学の発展に貢献できる高度薬学人材の輩出に向けた大学院教育のあり方」

[オーガナイザー]

・平田 収正 (和歌山県立医科大学)

[シンポジウム要旨]

令和元年に国公立大学薬学部長 (科長・学長) 会議の下に設置された薬学6年制教育研究検討委員会では、6年制薬学部及び4年制博士課程の教育研究における諸課題の解決に向けた検討を行っている。こういった課題の中で、迅速な対応が求められる課題として4年制博士課程において全体的に入学定員を満たさない状態が続いている点があり、近い将来大学における教育研究を始め創薬、臨床研究を担い、薬学の発展に貢献できる高度薬学人材の大幅な不足が予想される。本委員会では、平成28年度から文部科学省支援事業である「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」の一環として、本課題の解決に向けた取り組みを行っている。その一環として、本シンポジウムでは、令和3年6月に公開された厚生労働省「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」のとりまとめをもとに、厚生労働省の立場から薬学教育において養成すべき人材像について提言いただき、これに対応すべき国公立大学の大学院教育の在り方について、3大学の高度薬学人材養成に向けた4年制博士課程の体制との教育研究に関する取り組みに

ついて紹介いただく。さらに、今後の学部から大学院に繋がる教育研究が如何にあるべきかについて、現在進んでいる薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂の方針や本年度から始まった第2期薬学教育第三者評価における評価基準を取り上げて話題提供させていただき、情報共有と議論の場としたい。

#### [プログラム]

S46-1 社会が求める薬学人材－厚生労働省・薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会の報告から－

太田 美紀（厚生労働省）

S46-2 大学院教育制度改革（1）：金沢大学医薬保健学総合研究科

国嶋 崇隆（金沢大院薬）

S46-3 大学院教育制度改革（2）：広島大学大学院医系科学研究科

小澤 光一郎（広島大院医系科学）

S46-4 大学院教育制度改革（3）：大阪大学大学院薬学研究科

有澤 光弘（阪大院薬）

S46-5 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂・教育の質保証と大学院4年制博士課程教育のあり方

平田 收正（和歌山県立医大薬）

#### [要 旨]

（省略）

## 2. 合同研修会・キャリア形成支援ワークショップ

### （1）厚生労働省・独立行政法人医薬品医療機器総合機構

本事業の一環として、厚生労働省、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）のご厚意により、国公立大学の学生を対象とした研修会を実施していただいた。本事業の大学連携によって実施する教育研究活動として、厚生労働省PMDAへの就職を希望する学生、業務に興味がある学生を対象として、現地で原則、2日間の日程で研修を行った。両所の人事担当の方からの事業に関する説明や所内の見学だけでなく、若手職員との懇談や意見交換の場を設定いただき、その後参加学生によるセミナー等も開催した。

### 【2016年（平成28年）度】

#### [開催日]

・2017年2月22日、23日

#### [参加者]

・大阪大学 1年次生14名・5年次生2名（チューター）

[概要]

● 2月22日

<研修会>

・厚生労働省：概要説明、質疑応答、座談会（若手職員）

● 2月23日

<研修会>

・PMDA：概要説明、座談会（若手職員）

**【2018年（平成30年）度】**

[開催日]

・2019年2月14日、15日

[参加大学]

・東北大学、千葉大学、富山大学、静岡県立大学、名古屋市立大学、大阪大学、岡山大学、長崎大学

[参加者]

・5年次生20名・博士前期課程学生4名、博士課程学生3名 27名

[概要]

● 2月14日

<研修会>

① PMDA

・概要説明、質疑応答、座談会（若手職員）

② 厚生労働省

・概要説明、各課業務説明、省内見学、若手意見交換会、情報交換会

● 2月15日

<セミナー>

「国公立大学が目指す薬学教育」在学中から生涯を通しての目標

：小グループ討論、発表、総合討論

**【2019年（平成31年／令和元年）度】**

[開催日]

・2020年2月4日、5日

[参加大学]

・北海道大学、東北大学、千葉大学、東京大学、岐阜薬科大学、大阪大学、広島大学、九州大学、熊本大学

[参加者]

・3年次生、4年次生、5年次生、博士課程1年次生 32名

[概要]

● 2月4日

<研修会>

・厚生労働省：概要説明、各課業務説明、省内見学、若手意見交換会、情報交換会

● 2月5日

<研修会>

・PMDA：概要説明、質疑応答、座談会（若手職員）

## 【2020年（令和2年）度】

[開催日]

・2020年2月10日（オンライン）

[参加者]

・学部生、大学院生 48名

[概要]

<研修会>

・PMDA：概要説明、若手職員からの業務等紹介、事前アンケートへの回答、  
質疑応答

・厚生労働省：概要説明、各課業務説明、若手職員からの説明

## 【2021年（令和3年）度】

[開催日]

・2020年2月14日、15日（オンライン）

[参加者]

・学部生、大学院生 94名

[概要]

● 2月14日

<研修会>

・PMDA：概要説明 若手職員からの業務説明、全体質疑、座談会

● 2月15日

<研修会>

・厚生労働省：概要説明、各課業務説明、若手職員からの説明、座談会（若手職員）

## （2）微研財団研修会

事業の一環として、微研財団、大阪大学微生物病研究所、理化学研究所（神戸）での研修を行った。研究内容の説明や見学、OBを含めた若手研究者との懇談会、質疑応答・意見交換、セミナー等を開催した。

## 【2018年（平成30年）度】

[開催日]

・2019年2月25日、26日

[参加大学]

・東京大学、岐阜薬科大学、京都大学、大阪大学、岡山大学、徳島大学、長崎大学

[参加者]

・1年次生1名、3年次生8名、4年次生5名、5年次生1名、博士前期課程1名、  
博士課程1名 合計17名

[概要]

● 2月25日

<研修会>

・微研財団研究所（BIKEN：香川県観音寺市）  
：概要説明、工場見学、ワクチンに関する特別講義

● 2月26日

<セミナー>

・徳島大学薬学部  
：「国公立大学が目指す薬学教育」在学中から生涯を通しての目標

<研修会>

・理化学研究所（兵庫県神戸市）  
：概要説明・ギャラリー見学

## 【2019年（平成31年／令和元年）度】

[開催日]

・2020年2月12日、13日

[参加大学]

・千葉大学、岐阜薬科大学

[参加者]

・学部生4名、大学院生2名

[概要]

● 2月12日（水）

<研修会>

・微研財団研究所（BIKEN：香川県観音寺市）  
：概要説明、研究開発部門長によるワクチン開発説明、工場見学

● 2月13日（木）

<研修会>

・微研財団本部（大阪府吹田市）  
：財団本部先輩職員との座談会、基礎研究課長・プロジェクトリーダーとの  
座談会、基礎研究課見学

## 【2020年（令和2年）度】

[開催日]

- ・2021年2月15日（オンライン）

[参加者]

- ・学部生・大学院生 10名

[概要]

<研修会>

- ・微研財団研究所（BIKEN）  
：会社紹介、工場見学ムービー視聴、講義（感染症、ワクチンに関する基礎）、先輩職員との座談会

### 【2021年（令和3年）度】

[開催日]

- ・2022年2月9日（オンライン）

[参加者]

- ・学部生・大学院生 13名

[概要]

<研修会>

- ・微研財団研究所（BIKEN）  
：会社紹介、工場見学ムービー視聴、講義（臨床開発またはBMSセンター）、先輩職員との座談会

### （3）キャリア形成支援ワークショップ

学生のためのキャリア形成支援ワークショップを定期的で開催した。学部生や大学院生の国公立大学が目指す6年制薬学教育についての認識を高め、将来のキャリアについて考える機会を提供した。特に、大学院博士課程進学に向けたモチベーションの向上を図るために、大学や研究機関、医療機関等で薬剤師博士として活躍する博士課程修了者による体験談や意見交換を行った。

### 【2016年（平成28年）度】

[名称]

「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」キックオフシンポジウム

[開催日]

- ・2017年1月28日

[場所]

- ・大阪大学コンベンションセンター

[テーマ]

「国公立大学が目指す6年制薬学教育」

[オーガナイザー]

・平田 収正(大阪大学)・村岡 未彩 (大阪大学)

[趣 旨]

2016年(平成28年)度に文部科学省概算要求(機能強化経費)で採択された「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」のキックオフシンポジウムとして開催した。

[概 要]

参画大学から参加した学部生、大学院生、若手教員による小グループ討論を行い、プロダクトの作成と、その発表と全体討論を行った。テーマは「国公立大学が目指す6年制薬学教育」であり、国公立大学における薬学教育の在り方、3ポリシーの在り方について議論し、理想とする3ポリシーを作成した。さらにこれに基づいた時間割について議論し、モデルを作成した。

[プログラム]

10:00-10:10 開会式 趣旨説明・挨拶

10:10-10:25 事業説明

10:25-11:25 アイスブレイキング

11:25-13:50 第1部「国公立大学が目指す6年制薬学教育」3つのポリシーの作成

- ・作業説明
- ・グループ討論(昼食を含む)
- ・発表

14:05-16:25 第2部「国公立大学が目指す6年制薬学教育」6年間の時間割作成

- ・作業説明
- ・グループ討論(昼食を含む)
- ・発表

16:25-16:40 総合討論

16:40-17:00 閉会式 挨拶 表彰式 アンケート

\*各大学のプログラム運営委員は、12:30よりプログラム運営委員会へ出席。

## 【2020年(令和2年)度】

[名 称]

高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」学生ワークショップ

[開催日]

・2019年2月2日

[場 所]

・大阪大学コンベンションセンター

[テーマ]

「国公立大学が目指す6年制薬学教育」

[オーガナイザー]

・村岡 未彩（大阪大学）・平田 收正（大阪大学）

[趣 旨]

「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスド教育研究プログラムの共同開発」事業の一環として、学生の教育研究への取組のモチベーションを向上させるために、「国公立大学が目指す6年制薬学教育」をテーマとして、自大学以外の学生、学年の違う学生及び若手教員との議論の場を設けた。得られた提言については、今後の事業運営に活かして行く。

[概 要]

ワークショップの主説明、作業説明の後、参画大学から参加した学部生、大学院生、若手教員による小グループ討論を行い、プロダクトの作成と、その発表と全体討論を行った。テーマは、「国公立大学が目指す6年制薬学教育」であり、国公立大学における薬学教育の在り方、3ポリシーの在り方について議論し、理想とする3ポリシーを考え、それに基づいたカリキュラム・マップを作成した。また、在学中から生涯に渡る目標を設定することの重要性、その内容について共有し、議論を行った。

[プログラム]

- ・ 10:00～10:20 開会式：挨拶・趣旨説明、オリエンテーション、アイスブレイク
- ・ 10:20～11:10 ワールドカフェ
- ・ 11:20～13:50 「国公立大学が目指す6年制薬学教育」（1）
  - ：ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・マップの作成
  - ・ 作業説明
  - ・ グループ討論（昼食を含む）
  - ・ 発表・討論
- ・ 14:00～16:25 「国公立大学が目指す6年制薬学教育」（2）
  - ：在学中から生涯をとおしての目標作成
  - ・ 作業説明
  - ・ グループ討論（昼食を含む）
  - ・ 発表・討論

・ 16:25～16:40 総合討論

・ 16:40～17:00 閉会式・挨拶

\*各大学のプログラム運営委員は、12:30よりプログラム運営委員会へ出席。

## 【2021年（令和3年）度】

[名 称]

国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ

[開催日]

・ 2021年9月25日



## [場 所]

- ・オンライン（大阪大学）

## [テーマ]

「社会が求める薬学の発展に貢献できる高度薬学人材とは」

## [オーガナイザー]

- ・有澤 光弘（大阪大学）・平田 收正（和歌山県立医科大学）

## [ワークショップの趣旨]

現在、薬学教育モデル・コアカリキュラム（コアカリ）の再改訂作業が行われている。一方、本年6月に厚生労働省「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」のとりまとめが公表され、薬学教育の質の改善、薬剤師の資質・能力の向上に向けた厳しい提言が行われた。カリキュラムは薬学教育の基軸になるものであり、これらの要求に応えるためには、現状の網羅主義・活動主義の学習から脱却し、「深く考えることができる」コアカリを策定することが重要である。また、薬学部6年制の導入以来、国公立大学では大学院博士課程への進学者が大きく減っている。このままでは近い将来最先端の創薬研究や医療を担う薬剤師免許を持った博士、すなわち高度薬学人材が激減することが危惧されることから、博士課程進学者を増やすことは国公立大学が取り組むべき喫緊の課題と言える。

そこで本ワークショップでは、第1部のミニシンポジウムでは、国公立大学がこれらの課題の解決に向けて協働して取り組むために、国公立大学における医療人養成のための薬学教育カリキュラムの在り方と、大学院博士課程進学状況と取り得る進学促進の方策についての情報の共有化と意見交換を行い、問題意識を高めた。また第2部のキャリア形成ワークショップでは、国公立の大学や研究所、医療機関で活躍する6年制博士課程卒業生による講演と、大学院生、学部学生、教員による薬学博士人材の育成とキャリア形成に関する討論を通して、学部生の博士課程進学に向けたモチベーションの向上を図り、学部生、大学院生のキャリア形成、特に大学等で薬剤師免許を持った博士として薬学教育研究を主導する意識の向上を図った。

## [プログラム]

### 《第1部 ミニシンポジウム》

- ・10:00～10:05 趣旨説明 有澤 光弘（大阪大学・プログラム運営委員長）
- ・10:05～11:00 基調講演「医療人養成のための薬学教育カリキュラムの在り方—学術性を担保した臨床能力の熟達—」  
山田 勉（名古屋市立大学高等教育院）
- ・11:00～11:50 文部科学省委託事業「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究」  
について
  - ①薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂について  
鈴木 匡（名古屋市立大学）
  - ②4年制博士課程の在り方について  
国嶋 崇隆（金沢大学）
  - ③薬学系人材養成の在り方に関する検討会と今後のコアカリ改訂の方針

平田 收正（和歌山県立医科大学）

・ 11:50～12:10 総合討論

《第2部 キャリア形成ワークショップ》

・ 13:00～14:10 話題提供：「国公立大学における4年制博士課程の在り方と現状の課題」

平田 收正（和歌山県立医科大学）

・ 13:10～14:30 社会で活躍する薬学博士人材

①岐阜薬科大学衛生学研究室 石田 慶士

②国立医薬品食品衛生研究所食品部 山崎 由貴

③名古屋大学医学部附属病院薬剤部 松崎 哲郎

④大阪大学大学院薬学研究科臨床薬理学分野 廣部 祥子

・ 14:30～16:50 薬学博士人材のキャリア形成

①作業説明（10分） 村岡 未彩（大阪大学）

②スモールグループディスカッション・7グループ（70分）

③発表と質疑応答（40分）

④総合討論（20分）

・ 16:50～17:00 まとめ

[参加者]

・ 第1部：教員・学生110名

・ 第2部：4年制博士課程修了者（講演者）4名、4年制博士課程学生19名、  
学部生25名、教員46名

### 3. 学生自主研修プログラム

参画大学からの応募により、学部生や大学院生が自らの研究能力の向上やキャリア形成、国際性の涵養を目的として企画・参加する国内や海外での研修の機会を与えるプログラムである。大学間の連携によって実施する企画を優先的に採択して、実施した。原則、毎年募集を行ったが、2020年度以降、新型コロナ感染拡大の影響で目的地での研修が実施できなくなり、オンライン等を利用した研修を実施した。以下、各年度、海外研修プログラムと国内研修プログラムに分けて報告する。

#### 【2018年（平成30年）度】

##### （1）海外研修プログラム

###### ○ 広島大学 米国薬学部臨床実習研修

[日程]

・ 2018年8月8日～9月16日

[研修先]

- ・アメリカ合衆国

College of Pharmacy Mercer University, University of Tennessee College of Pharmacy, St. Jude Children's Hospital, LeBonheur Children's Hospital, Walgreens Pharmacy, Good Shepherd Pharmacy, Madison Pharmacy, Regional One Health Pharmacy, Methodist University Hospital, Memphis Veterans Affairs Medical Center, Kaiser Crescent Center, Atlanta Medical Center, Pool's Pharmacy

[実施大学／形態]

- ・広島大学／単独

[参加者]

- ・学部生、大学院生、教員

[概要]

今回の研修では、参加学生の国際感覚の醸成を図るとともに、国際社会においても活躍できる薬剤師を育成することを目的として、テネシー大学（8月13日～9月6日）、マーサー大学（9月11日～14日）がホストとなって行われた各大学薬学部の臨床実習や講義、および各地域の病院・薬局薬剤師業務の研修に参加した。

研修を受けるだけでなく、日本の薬学教育及び病院薬剤師の役割についてのプレゼンテーションも行うなど活発な意見交換も行った。また、テネシー大学における研修では、他国からの学生や臨床薬剤師も同じ研修に加わることによって米国のみならず、その他の国の薬剤師教育や臨床業務についても議論できたことが特徴として挙げられ、今回の研修では、タイ国からの薬学部生2名、病院薬剤師2名、およびアイルランドからの病院薬剤師1名と共に研修を行い、かつ交流を深めることができた。

マーサー大学では、薬剤をグミに溶解して調製する作業など、体験型の研修も含まれていた。

（スケジュール省略）

○ 岡山大学 学生自主研修（フィリピン）

[日程]

- ・2018年8月26日～9月1日

[研修先]

- ・フィリピン共和国

セブ市 University of San Carlos、Perpetual Succour Hospital及び市内薬局

[実施大学／形態]

- ・岡山大学／地域連携

[参加者]

- ・4年次生3名、6年次生2名、教員3名、薬剤師1名

[概要]

途上国での薬学教育および薬剤師業務の高度化に貢献できる国際性に富んだ高度先導的薬

剤師の養成を大きな目標として掲げ、フィリピン国内の薬学系大学の中でもトップレベルの薬学専門教育を実施しているUniversity of San Carlos (USC、岡山大学と大学間交流協定を締結済)を拠点とし、同市内の中核病院であるPerpetual Succour Hospital (PSH)、および市内薬局において実質5日間の研修を実施した。各研修参加学生にはUSC薬学科学生のバディが伴い、学内の講義・演習に共に参加することで、学生が直接的に同国の薬学教育を実体験した。PSH及び市内薬局においては、現地薬剤師から直接説明を受けるとともに、施設内を見学し、日本国における実臨床との類似点および相違点を学んだ。最終日には研修参加学生による英語でのプレゼンテーションを実施した。

今回の訪問に際しては、本研修プログラムの精査および次年度以降の展開に関する協議を目的とし、本学学内経費を獲得して教員1名を追加派遣した。また、大学間協定に基づく双方向的な研修の実施・継続のため、2018年10月にはUSCから6名(教員2名含む)を岡山大学に招聘し、本学及び本学附属病院での薬学教育・臨床・研究の見学・参加、学生間交流を含む8日間の研修プログラムを実施し、本研修成果を活かし参加学生も積極的に受入プログラムに参加する計画である。

(スケジュール省略)

## ○ 熊本大学 中国研修

[日程]

・2018年10月15日～19日

[研修先]

・中華人民共和国

江蘇省南京市：中国薬科大学(China Pharmaceutical University、CPU)、医療施設(南京市第一病院・南京市中西医结合医院・鼓楼区挹江門社区卫生服務中心・老百姓大薬房)、  
江蘇省蘇州市：参天製薬中国有限公司

[実施大学／形態]

・熊本大学／単独

[参加者]

・学部生1名、大学院生8名、教員2名

[概要]

中国では、国家をあげて科学技術政策への取組が急進しており、中国の国際的研究水準は急速に向上している。こうした背景の下、医療技術も進歩し、医療制度の改革も伴って、中国の健康水準は向上している。しかし、都市部と農村部での医療格差など中国の医療制度には多くの問題が存在している。本インターンシップでは、江蘇省南京市にて、1日目にCPU Jangning campusを訪問し、中国の伝統的な天然物創薬の歴史や、最新の臨床薬学教育について学んだ。また、CPUの大学生や留学生と研究や大学生活についてフリーディスカッションを行い、学生同士で交流を深めた。2日目には、研究施設があるCPU Xuanwu campusを訪問し、最先端の研究機器を配備している研究室を見学した。2～4日目には、CPUの附属病院である南京市第一病院や南京市中西医结合医院、健康センターの鼓楼区挹江門社区卫生

生サービスセンター、調剤薬局の老百姓大薬房を訪問し、中国の医療制度の現状と課題を学んだ。5日目には江蘇省蘇州市にて、日系製薬企業の参天製薬中国有限公司を訪問し、海外でのビジネス展開の現状、中国の製薬企業の動向について学んだ。

(スケジュール省略)

○ 長崎大学 学生自主研修 (ニューメキシコ)

[日程]

・2018年11月3日～11日

[研修先]

・アメリカ合衆国  
ニューメキシコ大学 (UNM)

[実施大学／形態]

・長崎大学・千葉大学／大学間連携

[参加者]

・長崎大学 大学院生2名・教員1名、千葉大学 大学院生1名

[概要]

・1日目

UNM薬学部施設の見学と講義の聴講「アメリカの薬剤師制度について」

・2日目

HIPAA (コンプライアンス) トレーニング／大学病院のペインセンターにて臨床薬剤師の業務を見学／UNM薬学部の研究者とディスカッション

・3日目

学生とともに講義を聴講 (Oncology)

・4日目

2つの地域薬局の訪問／Project ECHO (テレビ会議による症例共有) の見学  
大学病院薬剤部の見学とキャンパスツアー

・5日目

毒性管理センターを訪問した／UNMへの短期留学に関する説明

○ 京都大学 学生自主学修プログラム in 香港

[日程]

・2019年1月27日～31日

[研修先]

・香港  
中文大学薬学部

[実施大学／形態]

・岡山大学・北海道大学・富山大学／大学間連携

[参加者]

- ・京都大学 学生1名・教員1名、北海道大学 学生1名、富山大学 学生2名・教員1名

#### [概要]

グローバルな視野を持ち国際的に活躍する薬剤師には、各国の医療制度や社会構造の違いに応じた職能の違いを理解し、適した医療サービスを提供できる問題発見・解決能力を身につけることが要求される。香港は長寿世界一の都市で医療福祉が充実しており、比較的日本と似た医療環境であるものの、日本のように皆保険制度は存在しないといった社会保障制度の違いも見られ、薬剤師の職能や医療制度を比較して学ぶのに適している。

今年度は国公立17大学に一般公募を行い、北海道大学より学生1名、富山大学より教員1名、学生2名、京都大学より教員1名、学生2名が参加した。

(スケジュール省略)

### (2) 国内研修プログラム

#### ○ 東北大学 学生自主学修プログラム 被災地医療研修

##### [日程]

- ・2018年8月28日

##### [研修先]

- ・東北大学
- ・宮城県石巻地区  
石巻赤十字病院、大川小学校、女川地域医療センター、日和山公園

##### [実施大学／形態]

- ・東北大学／地域連携

##### [参加者]

- ・学部生、大学院生

##### [概要]

災害時医療および災害時における地域の医薬品供給体制や医療救護体制を学び薬剤師等の役割を理解する。石巻赤十字病院において、特に、東日本大震災の現状とその対応について確認・体験学習・討議し理解を深める。地域における医療連携体制、多職種間における患者情報の共有について学ぶ。

(スケジュール省略)

#### ○ 熊本大学 Amakusa Medical Students (AMS) 研修～地域医療に貢献する学生の力～

##### [日程]

- ・2018年8月29日～31日、2018年10月27日～28日、2018年11月23日、2019年2月23日

##### [研修先]

- ・JA新潟県厚生連佐渡総合病院、佐渡市役所、佐渡市の医療施設

熊本県立天草青年の家、松島総合センター「アロマ」（上天草市役所）、上天草市役所 上天草総合病院

[実施大学／形態]

- ・熊本大学／地域連携（大学間連携）

[参加者]

- ・学部生、大学院生、教員

[概要]

天草地域は、少子高齢化、人口減少の進展に伴い、医療提供体制に多くの問題を抱えている地域の一つである。学生団体”Amakusa Medical Students (AMS)”は、天草出身の医療系大学、専門学校に通う学生間の交流の場を作り、学生が自ら地元の地域医療の実情を現地で学び、解決策について考える機会を作ることを目的に2017年4月に発足した団体である。本年度は、8/29～8/31の3日間で同じ離島の地域医療問題を抱える新潟県佐渡市にて展開されている地域連携医療ネットワークシステム「さどひまわりネット」について学び、天草地域の医療問題の解決に向けた策を考えるインターンシップを実施した。また、2017年度に開催したAMS主催のワークショップで企画立案された地域医療の課題解決にむけた新規プロジェクトの実現化に向け、10/27・28に合宿型アイディアソンを開催した。11/23には、昨年度に引き続き、上天草市健康フェアにて、天草郡市薬剤師会と共同で住民を対象とした医療系学生による健康推進講座の開催、小学生を対象とした薬剤師体験ブースを出展し、地元住民と交流した。2018年度の活動報告を上天草総合病院の院内学会にて行った。

（スケジュール省略）

○ 岐阜薬科大学 学生自主学修薬局研修

[日程]

- ・2018年9月4日～5日

[研修先]

- ・茨城県  
フローラ薬局

[実施大学／形態]

- ・岐阜薬科大学／単独

[参加者]

- ・学生2名・教員2名

[概要]（スケジュール）

●2018年9月4日

13:00～14:30 昼食：フローラ薬局監修薬膳30品目ヘルシーランチ（500kcal・塩分2g）（各自で支払）

14:50～16:00 見学：ALS在宅患者訪問（NST管理栄養士・篠原先生）

16:00～17:00 講義：「フローラ薬局の健康サポート薬局の取り組み」

17:00～18:30 見学：フローラ薬局友部店(ドイツ型無菌調剤室完備)  
フローラ薬局本店ハーブ園

20:00～21:00 講義：「薬膳の効能について」

●2018年9月5日

9:00～11:30 見学：フローラ薬局本店ハーブ園でのラベンダーの蒸留  
フローラ薬局河和田店店舗、在宅報告書

11:30～15:00 体験学習：アロマスプレーづくり、ラカント低糖質シリーズ新製品  
試食会

○ 金沢大学 「薬剤師による薬物治療の実践（褥瘡治療を例にして）」

[日程]

・2018年9月9日

[研修先]

・金沢大学角間キャンパス

[実施大学／形態]

・金沢大学／地域連携

[参加者]

・金沢大学4年次生26名・教員2名、石川県薬剤師6名

[概要]

褥瘡医療は多職種連携が必要な領域であり、薬剤師の薬物治療支援が役立つ分野で、薬剤師はチーム医療において、患者の病態に応じた効果的な薬物療法の実践が求められている。しかし、褥瘡治療に関わっている薬剤師は少ない。古田による褥瘡の薬物治療（FURUTA METHOD）の導入により薬剤師の褥瘡治療への参画は褥瘡治癒期間を短縮し、医療費削減へとつながることが報告されている。褥瘡が発生する背景には、摩擦やずれ・湿潤などの局所の問題はもちろん、年齢、患者の低栄養・関節拘縮・病的骨突出などの全身状態、さらには介護の不足・体位変換や坐位保持の困難などの環境等、様々な要因が考えられる。薬剤師は褥瘡の病態に応じた適切な治療薬や創傷被覆材を提案し、かつ様々な施設でのチーム医療に積極的関与が必須となる。今回、褥瘡薬物治療におけるFURUTA METHODの知識と実技の習得を目的に研修を実施した。

（スケジュール省略）

○ 静岡県立大学 薬事研修プログラム

[日程]

・2018年12月11日～14日、12月18日

[研修先]

・静岡県薬事課、静岡県環境衛生科学研究所、日医工株式会社静岡工場

[実施大学／形態]

・静岡県立大学・名古屋市立大学／大学間連携



[参加者]

- ・静岡県立大学 学部生 3名、名古屋市立大学 学部生 1名

[概要]

静岡県薬事課の協力により、多くの製薬関連工場がある静岡県の特徴を活かしたレギュラトリーサイエンスに関する研修プログラムを実施した。本プログラムには静岡県立大学から3名、名古屋市立大学薬学部から1名の学生が参加した。プログラムの概要を以下に記す。

研修1日目及び2日目は、静岡県薬事課において静岡県の薬事監視体制、医薬品医療機器等の法律、GQP、GVP、GMPに関する講義によって基礎的な知識を習得した。また、静岡県環境衛生科学研究所において医薬品の試験検査に関する基礎的な知識を習得し、各種測定法のデモンストレーションを見学・体験した。

研修3日目及び4日目は、薬事機動班と共に医薬品製造工場（日医工株式会社静岡工場）に赴き、機動班の薬事監視業務を見学した。

研修5日目は静岡県薬事課において、研修内容をまとめたレポートの作成、発表、総合討論を行った。

本プログラムに関する記事を学部のHPに掲載した。

○ 岐阜薬科大学 薬学生に必要な経営戦略とマネジメント

[日程]

- ・2019年2月2日～3日

[研修先]

- ・岐阜薬科大学本部第2講義室及び実習室

[実施大学／形態]

- ・岐阜薬科大学・名古屋市立大学／大学間連携

[参加者]

- ・岐阜薬科大学 学生4名、名古屋市立大学 学生3名、講師2名、教職員7名

[概要] (スケジュール)

●2019年2月2日

9:15～開会の挨拶 寺町ひとみ

9:20～10:20 基調講演「BSCの構造と作成ステップ」：

赤瀬朋秀(日本経済大学経営学部・大学院教授)

10:20～12:20 グループワーク「自分たちの薬局におけるSWOT分析の試み」

赤瀬朋秀・井口恵美子

12:20～13:20 昼食・休憩

13:20～15:20 グループワーク「クロス分析と戦略課題の抽出」

赤瀬朋秀・井口恵美子

15:20～16:00 グループワーク「優先度の高い経営課題の選定(二次元展開法)」

赤瀬朋秀・井口恵美子

- 16:00～16:30 参加者による中間発表：赤瀬朋秀  
 16:30～16:45 ショートレクチャー「戦略テーマの抽出と戦略マップの構造」  
 井口恵美子(横浜市立みなと赤十字病院薬剤部 副薬剤部長)  
 16:45～17:00 講評:赤瀬朋秀 閉会の挨拶:寺町ひとみ  
 18:00～20:30 情報交換会

●2019年2月3日

- 8:55～9:00 開会の挨拶：寺町ひとみ  
 9:00～9:30 講義「戦略マップ作成のポイント」  
 赤瀬朋秀  
 9:30～11:10 グループワーク「戦略マップの作成」  
 赤瀬朋秀・井口恵美子  
 11:10～12:10 昼食・休憩  
 12:10～12:20 講義「スコアカード作成のポイント」  
 井口恵美子  
 12:20～15:20 グループワーク「スコアカードの作成と目標値の設定」  
 赤瀬朋秀・井口恵美子  
 15:20～15:50 参加者による発表：赤瀬朋秀・井口恵美子  
 15:50～16:05 講評：赤瀬朋秀 閉会の辞：寺町ひとみ

○ 岡山大学 見学研修

[日程]

- ・2019年2月20日～21日

[研修先]

- ・東和薬品、理化学研究所、武田薬品京都薬用植物園、田辺三菱製薬史料館、公益財団法人 武田科学振興財団杏雨書屋他（道修町ミュー ジアムストリート）

[実施大学／形態]

- ・岡山大学／単独

[参加者]

- ・3年次生26名、4年次生1名、大学院生（博士後期課程）1名、教員3名

[概要]

本研修プログラムでは、幅広い「知」を備えた研究型薬剤師（Pharmacist-Scientist）や企業研究者・開発の育成を目的として、薬学生が製薬企業や研究所における業務の実情や薬学系教員のキャリアパスを学ぶことのできる研修セミナーを実施した。本プログラムにおいては、国内屈指のジェネリック医薬品企業である東和薬品、世界最先端の研究施設の理化学研究所、多様な天然医薬資源とその活用を体験できる武田薬用植物園、そして、日本の医薬品産業発祥地である大阪道修町の医薬史料館（田辺三菱製薬史料館並びに武田科学振興財団杏雨書屋等）を訪問し、普段学生が触れることのできない貴重医薬史や革新的医薬品の開発の経緯を学ぶ機会を設けた。また、学生が大学における研究・教育業務とその使命等に関し

て理解を深める機会を提供すべく、薬学系若手教員の研究・教育に関するキャリアパスを紹介するセミナーを開催した。

(スケジュール省略)

○ 熊本大学 メディポリス国際陽子線治療センター研修

[日程]

・2019年3月4日～5日

[研修先]

・鹿児島県指宿市

一般社団法人メディポリス医学研究所メディポリス国際陽子線治療センター

[実施大学／形態]

・熊本大学／地域連携（大学間連携）

[参加者]

・学生14名、教職員2名

[概要]

医療の革新的な進歩により、がんに対する多様な新規治療法が開発され、がん患者が様々な治療戦略の中から最適な治療法を選択できる時代になりつつある。本研修では、薬学的観点から最新のがん治療の動向・現状を把握し、個々の患者に最適ながん治療を実施するための最新の知識を修得することを目的とし、がん治療における最先端の陽子線治療を実施している「一般社団法人 メディポリス医学研究所 メディポリス国際陽子線治療センター」にて、施設見学、講演会、意見交換会を実施した。

(スケジュール省略)

**【2019年（平成31年／令和元年）度】**

(1) 海外研修プログラム

○ 富山大学 南カリフォルニア大学薬学部における米国での薬学教育の研修

[日程]

・2018年7月1日～14日

[研修先]

・アメリカ合衆国

南カリフォルニア大学薬学部

[実施大学／形態]

・富山大学／単独

[参加者]

・学部生、大学院生

[概要]

南カルフォルニア大学の担当教授のコーディネートのもと以下の研修プログラムが実施された。

- 1) アメリカの臨床薬学教育と実務実習
- 2) アメリカの薬学部生の生活
- 3) 他の健康・医療系学部の見学

以上のような導入教育の後、専門的な実践薬学教育が開始された。

- 4) 精神疾患患者におけるメンタルスコアをもとにした SOAP の記載方法。
- 5) 患者との対話の仕方
- 6) うつ病患者に対する薬物療法
- 7) うつ病患者でのケーススタディ
- 8) 地域のコミュニティーファーマシーの見学
- 9) がん専門病院の薬剤師業務の見学  
(スケジュール省略)

#### ○ 岡山大学 海外研修プログラム (フィリピン共和国)

[日程]

- ・ 2018年 9月 8日～13日

[研修先]

- ・ フィリピン共和国

セブ市 University of San Carlos、Perpetual Succour Hospital、及び市内薬局 3 件 (Rose Pharmacy、Watson's、MedExpress)

[実施大学／形態]

- ・ 岡山大学・徳島大学／大学間連携

[参加者]

- ・ 岡山大学 学部生 3 名・大学院生 1 名・教員 2 名、徳島大学 学部生 1 名  
学部生、大学院生、教員

[概要]

本研修プログラムでは、途上国での薬学教育・薬剤師業務の高度化に貢献できる国際性に富んだ高度先導的薬剤師の養成を目標として掲げ、昨年度に引き続きフィリピン共和国 University of San Carlos (USC) を拠点とし、同市内中核病院である Perpetual Succour Hospital (PSH)、および同国内の代表的大規模チェーン薬局 (Rose Pharmacy、Watson's および MedExpress) の見学など、実質 4 日間の研修を実施した。岡山大学と USC は大学間協定を締結しており、これまでも教員及び学生の交流を実践してきている。今年度は、特に本研修を徳島大学と共同で開催し、またプログラム内容も昨年度の内容から更に充実を図り、参加学生は USC 内で 1.5 日間の講義を受講し、PSH では病棟業務、市内薬局ではオンライン処方などを含む各業務の細部までを見学した。また、研修の中では帯同教員による講演会を開催し、日本国とフィリピン国における薬学教育・研究および臨床業務の相違点について活発に議論し、さらに研修の最終日には参加学生による英語でのプレゼンテーションを実施した。

なお、次年度以降も双方向的な研修の実施・継続のため、本年10月にはUSCから6名を岡山大学に招聘し、本学および附属病院での薬学教育・臨床・研究の見学・参加、学生間交流を含む7日間の研修プログラムを実施する予定である。

(スケジュール省略)

#### ○ 長崎大学 薬剤師の先進的役割 in ニューメキシコ州

[日程]

・2020年2月10日～20日

[研修先]

・アメリカ合衆国  
ニューメキシコ大学 (UNM)

[実施大学／形態]

・長崎大学・広島大学／大学間連携

[参加者]

・長崎大学 学部生1名・教員2名、広島大学 学部生1名

[概要]

アメリカ合衆国ニューメキシコ州のThe University of New Mexico (UNM) College of Pharmacyおよびその関連施設や医療機関において研修を行い、アメリカ合衆国、特にニューメキシコ州における薬剤師の役割や薬剤師教育について学んだ。ニューメキシコ州は、50州の中で最も薬剤師の職域が広い州であり、事前に承認されたプロトコールの下で診断および処方を行うPharmacist Clinicianをはじめ、薬局薬剤師によるワクチン接種や避妊薬処方などが認められている。また、UNMは、これらの高度に教育された薬剤師の育成を担い、先進的な教育および実習システムを有する。

本研修では、UNM病院薬剤部やPoison and Drug Information Centerにおいて薬の専門家として活躍する薬剤師、UNM Pain ClinicやProject Echo (遠隔カンファレンスシステム) においてチーム医療の重要な柱として活躍する薬剤師、Community Pharmacyにおいて地域の最も身近な医療提供者として活躍する薬剤師のそれぞれの働きを学んだ。これらの研修を通して、薬剤師が専門的な知識を活かし幅広い職域で活躍できる存在であることを実感できることを目指した。

さらに、アメリカやUNMの薬剤師教育システムやその成り立ちについて学んだ。その際、UNM薬学部の教員や薬学生と常に意見のやり取りを行い、日米の薬学教育システムの双方の強みや互いに学ぶべき点について自ら気づく機会を設けた。

(スケジュール省略)

#### (2) 国内研修プログラム

#### ○ 岐阜薬科大学 学生自主研修講演会「ドイツにおける医薬分業とかかりつけ薬剤師」

[日程]

・2020年7月9日

[研修先]

・岐阜薬科大学

[実施大学／形態]

・岐阜薬科大学・名古屋市立大学／大学間連携

[参加者]

・岐阜薬科大学 学生33名・教員4名・職員2名、名古屋市立大学 学生5名

[概要]

超高齢化社会に向けて地域包括ケアシステムの中で活躍できる薬剤師教育は喫緊の課題である。一方、ドイツでは医薬分業が1241年に開始されており、すべての薬局がかかりつけ薬局であるなど、日本が参考にするところが多い。そこで、日本出身で、ドイツロッテンブルク市で開局されているセントラルアポテーケの薬剤師アッセンハイマー慶子先生の講演会を企画した。また、日本コミュニティファーマシー協会代表理事である吉岡ゆうこ先生には日本とドイツの薬事行政の違いについて講演していただいた。講演に続いて、学生によるSGDと発表、講師・教員による講評を行った。

(スケジュール省略)

#### ○ 東北大学 宮城県石巻地区被災地医療研修

[日程]

・2019年8月27日

[研修先]

・東北大学薬学部

・宮城県石巻地区

石巻赤十字病院、大川小学校、女川地域医療センター、日和山公園

[実施大学／形態]

・東北大学／地域連携・国際連携

[参加者]

・学生18名（台北医学大学留学生2名含む）、教職員6名

[概要]

災害時医療および災害時における地域の医薬品供給体制や医療救護体制を学び薬剤師等の役割を理解する。石巻赤十字病院において、特に、東日本大震災の現状とその対応について確認・体験学習・討議し理解を深める。地域における医療連携体制、多職種間における患者情報の共有について学ぶ。

(スケジュール省略)

#### ○ 熊本大学 米国ニューメキシコ大学 (UNM) 海外連携教育プログラムの開発

[日程]

・2019年10月11日

[研修先]

- ・熊本大学薬学部

[実施大学／形態]

- ・熊本大学／単独

[参加者]

- ・招聘講師（ニューメキシコ大学）1名、教員3名

[概要]

薬学教育の急速なグローバル化が進む中、国際的な活躍が期待される高度先導的薬剤師の育成を推進するためには、学生の国際交流の推進や語学力・コミュニケーション力の強化に加え、指導教員のグローバル化・指導スキルの向上を目的とした新たな高度薬学教育プログラムの開発が必須である。本研修では、米国における臨床薬学研修に関して実績のあるニューメキシコ大学（UNM）と熊本大学薬学部との連携により、継続性のあるグローバル薬学教育環境の整備・強化を企図とした臨床薬学研修プログラムの構築を目的とし、本年度中に、UNMから教員を招聘し、両国の教員・学生間の相互理解を深め、明確な共通ニーズを基盤とした海外連携教育プログラムを開発する。

（スケジュール省略）

○ 岐阜薬科大学 新しい緩和医療を体験学習する～リボン洞戸における宿泊研修～

[日程]

- ・2020年2月18日～20日

[研修先]

- ・岐阜県関市  
リボン洞戸

[実施大学／形態]

- ・岐阜薬科大学・岡山大学／大学間連携

[参加者]

- ・岐阜薬科大学 学部生5名・教員2名、岡山大学 学部生2名

[概要]

国立がん研究センターによると、日本でのがんによる死亡者数は第1位で、約3人に1人が亡くなっており、年間で見ると約35万人にのぼる。がんの代表的な治療方法には、手術（外科治療）、薬物療法（抗がん剤治療）、放射線治療の三大標準治療に加え、免疫治療、温熱療法、代替医療（補完医療ともいう健康食品やサプリメント）なども存在する。また、がんの三大標準治療以外の治療法や代替医療にも目を向けることによって、より多くのがん治療を選択することが可能になる。日本は2025年には超高齢化社会により、介護・医療費などの社会保障費の急増が懸念されており、がん患者でも病院での看取りが困難となり、地域包括ケアシステムの確立が急務とされている。そこで、リボン洞戸において、免疫力を上げ、がんを予防するための生活習慣「リボン5か条」を体験することにより、これからの新し

い緩和医療について学習することを目的とする。

(スケジュール省略)

○ 熊本大学 メディポリス国際陽子線治療センター研修

[日程]

・2020年2月16日～17日

[研修先]

・鹿児島県指宿市

一般社団法人メディポリス医学研究所メディポリス国際陽子線治療センター

[実施大学／形態]

・熊本大学／地域連携（大学間連携）

[参加者]

・学生9名、教員1名

[概要]

医療の革新的な進歩により、がんに対する多様な新規治療法が開発され、がん患者が様々な治療戦略の中から最適な治療法を選択できる時代になりつつある。本研修では、薬学的観点から最新のがん治療の動向・現状を把握し、個々の患者に最適ながん治療を実施するための最新の知識を修得することを目的とし、がん治療における最先端の陽子線治療を実施している「一般社団法人 メディポリス医学研究所 メディポリス国際陽子線治療センター」にて、講演会、施設見学及び講師と学生の意見交換会を行った。

(スケジュール省略)

**【2020年（令和2年）度】**

報告なし。参画大学が企画・準備した海外研修及び国内研修プログラムは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止あるいはオンラインにより開催された。したがって、最終的に学生自主研修プログラムとして実施されたものはなかった。

**【2021年（令和3年）度】**

(1) 海外研修プログラム

○ 富山大学 南カリフォルニア大学 (USC) のサマープログラム2021への参加

[日程]

・2021年7月19日～30日（オンライン開催）

[研修先]

・アメリカ合衆国

南カリフォルニア大学薬学部



[実施大学／形態]

- ・富山大学／単独

[参加者]

- ・学部生・大学院生 7名

[概要]

USC薬学部が2021年度に企画した独自のオンラインによる国際交流プログラムに参加した。Zoomを用いたオンライン参加型プログラムであり、世界各国からの参加学生とともに英語で高度薬剤師になるためのグループワークを体験した。参加学生は、4つの専門コース（医薬品開発、臨床治療、レギュラトリーサイエンス、あるいは健康経済学）から1分野を選択し、各テーマの国際プロジェクトチーム（計18チーム）に振り分けられ、日本時間の11:30（現地時間：前日19:30）より毎日3時間のグループワークセッションに参加し、以下の観点で計12枚のスライド資料作成を行い、最終日に英語での発表を行った。なお、プログラム参加者は、日本、中国、韓国、台湾、マレーシア、インド、パキスタン、サウジアラビア、スペインの学生から構成された。

- 1) タイトルおよびアウトライン
- 2) 科学的背景
- 3) 臨床利用
- 4) 承認・規制に関連すること
- 5) 経済学的な関連事項
- 6) 臨床と経済学に関する考察
- 7) 承認・規制と科学的考察
- 8) 臨床と承認・規制に関する考察
- 9) 経済学および科学的考察
- 10) 臨床および科学的考察
- 11) 経済および承認・規制に関する考察
- 12) 結論  
(スケジュール省略)

○ 長崎大学 International Teaching Certificate Programの受講に基づくカリキュラムプランニングワークショップの開催

[日程]

- ・2021年10月27日～2022年3月10日（オンライン開催）

[研修先]

- ・アメリカ合衆国  
ニューメキシコ大学

[実施大学／形態]

- ・長崎大学・熊本大学・大阪大学／大学間連携

[参加者]

- ・長崎大学 学生 4 名、熊本大学 学生 4 名、大阪大学 学生 4 名、教員12名  
(うち6名はITCPとワークショップ参加者)

#### [概要]

わが国において臨床薬剤師の役割はまだ流動的なところが多い上、薬学教育は個々の教員の能力や臨床経験に依存している部分が多く、系統だった人材育成が行われているとは言い難い。一方、アメリカ合衆国ニューメキシコ大学 (UNMCOP) では、臨床薬剤師を養成するための教育システムが確立している。今回のプロジェクトでは、UNMCOPが提供する International Teaching Certificate Program (ITPC) を大阪大学、長崎大学、熊本大学の教員が受講し、アメリカの先進的な臨床薬学教育指導法を学ぶことで教員の臨床教育能力を高めた。さらに、大学間合同の教員・学生によるカリキュラムプランニングワークショップを開催し、学びの共有化と学生の臨床能力の向上を図った。

(スケジュール省略)

## (2) 国内研修プログラム

### ○ 熊本大学 「日本におけるワクチンによる予防医学を学ぶ」

#### [日程]

- ・2021年8月18日～26日、9月30日 (一部オンライン開催)

#### [研修先]

- ・熊本大学 (薬学部・医学部・医学部保健学科・大学病院)
- ・KMバイオロジクス株式会社

#### [実施大学/形態]

- ・熊本大学/地域連携・国際連携

#### [参加者]

- ・学生5名、教員名

#### [概要]

21世紀は予防医学の時代といわれ、ワクチンや抗菌薬などにより感染症は激減している。日本での予防接種は勧奨接種であり、ワクチン接種は個人の選択が尊重されている。しかし、日本では健康被害という副反応の問題に社会的関心が集まり、先進諸国と比較して新たなワクチン導入に対して前向きではない現状があった。

本研修では、子宮頸がん予防のヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチンを例として、日本におけるワクチンによる予防医学について医療従事者、患者、研究者、ワクチン開発企業、行政職、薬害被害者の観点から多角的に学び、日本のワクチンによる予防医学の課題について深堀した。最初に、薬学部にて、感染症およびワクチン開発の歴史について学んだ。次に、医学部・大学病院にて、子宮頸がんおよび治療について学んだ。また、子宮頸がんのがんサバイバーの方とHPVワクチンに関する意見交換を行った。オンラインにてHPVワクチンを開発した製薬会社の方からHPVワクチンの開発状況、副作用の発生状況について学んだ。また、医学部にてHPVワクチンの安全性に関する研究について学んだ。KMバイオロジクス株式会

社にて、業務の概要およびワクチン開発の流れについて学んだ。薬害被害について、薬害被害者の講話を聴講し、意見交換を行った。熊本県の行政関係者の方から、熊本県におけるがん対策およびHPVワクチン接種に関する行政側の体制について学んだ。オンラインにてケンブリッジ大学の先生から海外のHPVワクチンの接種状況について学んだ。最後に、研修成果発表会を実施した。

(スケジュール省略)

○ 熊本大学 メディポリス国際陽子線治療センター研修

[日程]

- ・ 2022年2月21日（オンライン開催）

[研修先]

- ・ 鹿児島県指宿市

一般社団法人メディポリス医学研究所メディポリス国際陽子線治療センター

[実施大学／形態]

- ・ 熊本大学・岐阜薬科大学／地域連携・大学間連携

[参加者]

- ・ 熊本大学 学生15名、岐阜薬科大学 学生1名

[概要]

医療の革新的な進歩により、がんに対する多様な新規治療法が開発され、がん患者が様々な治療戦略の中から最適な治療法を選択できる時代になりつつある。本研修では、薬剤師の観点から最新のがん治療の動向・現状を把握し、個々の患者に最適ながん治療を実施するための知識を習得することを目的とし、がん治療における最先端の陽子線治療を実施している「メディポリス国際陽子線治療センター」のご協力のもと、下記の通り研修を実施した。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえて、オンライン研修とした。

(スケジュール省略)